



2019 年度 卒業時アンケート 結果報告【大学】

目次

1. 調査の概要	1
2. 本学に入学してよかったか.....	1
3. 学修の満足度.....	2
4. 建学の精神の社会的実践	3
5. 在学中の講義機会について.....	3
6. 身についた力.....	3
7. 進路決定に役立ったもの	4
8. 進路満足度	5
9. 本学は、第一希望だったか.....	5
10. まとめ.....	5

1. 調査の概要

本報告は、郡山女子大学における 2019 年度 3 月の卒業生を対象として、本学に対する印象や在学中の学修状況などを把握することを目的に実施したアンケートの結果を集計したものである。調査は、2019 年度の卒業認定者発表後に調査票を配布し、3 月末までに記入してもらい回収する予定だった。しかしコロナ感染症の拡大により、クラスによっては締め切り予定日に学生が登校出来ずに郵送による回収となったため、締め切り日を延ばしたが回収率が落ち込んだ。2019 年度 3 月の卒業生数 102 名であるが、そのうち 68 名から有効な回答を得た。

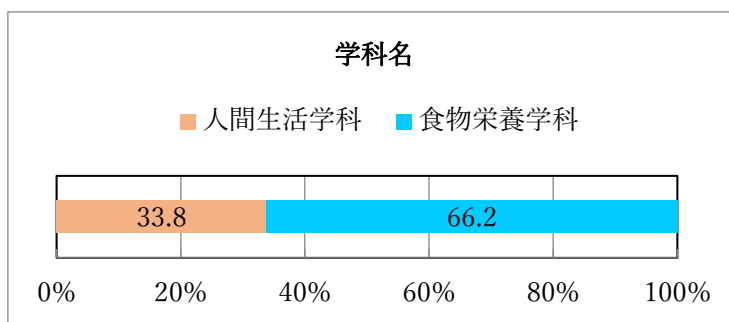


図 1. 回答者分布

2. 本学に入学してよかったか

調査では、「郡山女子大学に入ってよかったと思いますか」として、「そう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「あまりそう思わない」「そう思わない」から選択してもらった。集計の結果、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると約 8 割強であり、概ね学生が本学に入学してよかったと感じていることがわかる。卒業時アンケートは、一昨年度からの実施のため毎年行われていた学生生活アンケートでの年度間で比較しても回答の割合に大きな差はみられない。

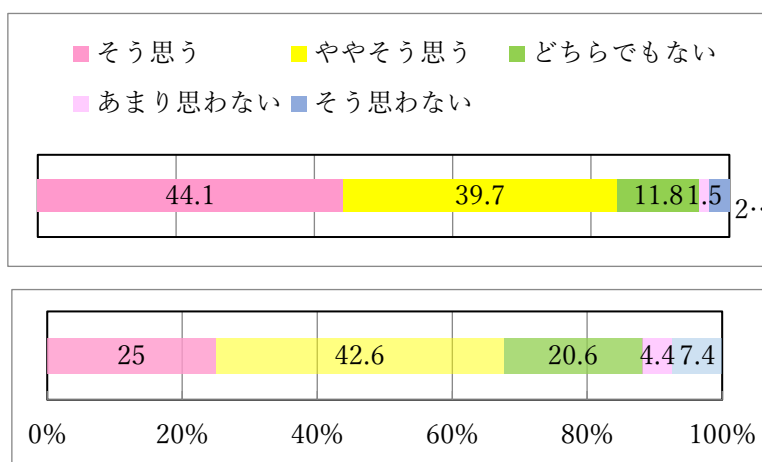


図2. 本学に入学してよかったか (R1(上) H30(下))

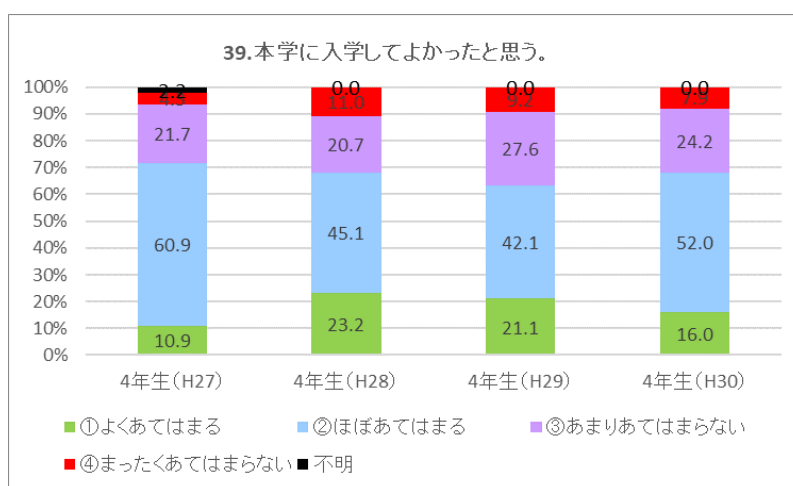


図3. 学生生活アンケートでの経年変化

3. 学修の満足度

学修の満足度については、「思う」「やや思う」「どちらでもない」「あまり思わない」「思わない」の5段階で回答してもらった。ここでは、「思う」「やや思う」合わせて約7割強の学生が満足している。次年度も継続して、さらなる満足度向上に向けて対応していく必要がある。

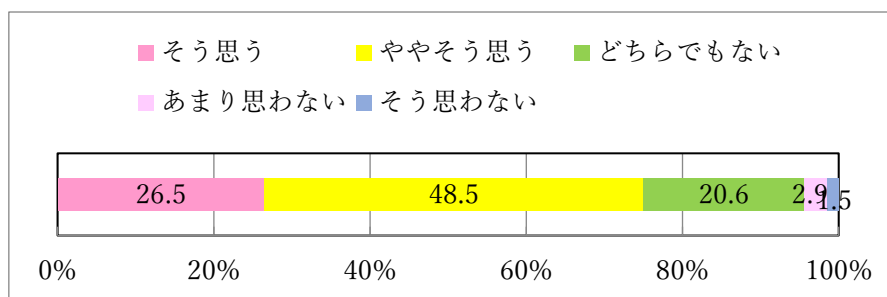


図4. 学修満足度



4. 建学の精神の社会的実践

「尊敬」、「責任」、「自由」という本学の建学の精神を、卒業後の社会生活において実践しようと思うかどうかをたずねた質問の集計結果を示す。約 7 割強の学生が何らかの形で実践し得ていると考えていることがわかる。次年度も継続して本学の教育を通して、建学の理念を学生が体感・実感できる機会を設ける必要がある。

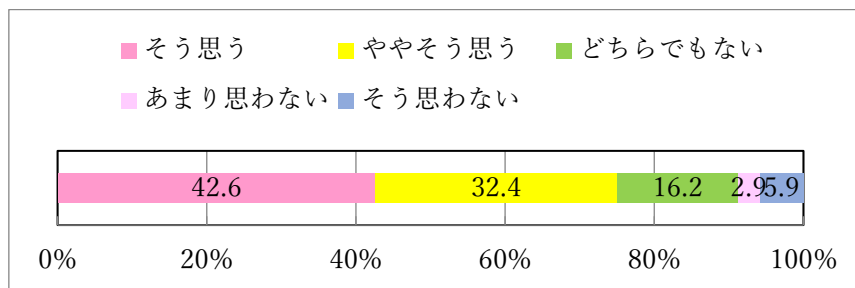


図 5. 建学の精神の社会的実践

5. 在学中の講義機会について

在学中の講義で、どのような機会に恵まれたかを 7 の項目を挙げて回答してもらった。小テストやレポートなどが課される機会が多く、続いてプレゼンテーションをした、授業時間外の学習が多かったとの回答を得た。一方で、外国語での議論や発表をする機会が前年度より更に 1 割減った(前年 13.3%)。そもそも英語のみでの授業もシラバス上確認できないためやむを得ない結果と言える。4 年前に英語系共通科目でベーシック、アドバンスという具合に難易度別科目を立上げ、英語のみ授業も開設されている。機会の提供は増えており、まずはそれらを生かしてほしいものである。

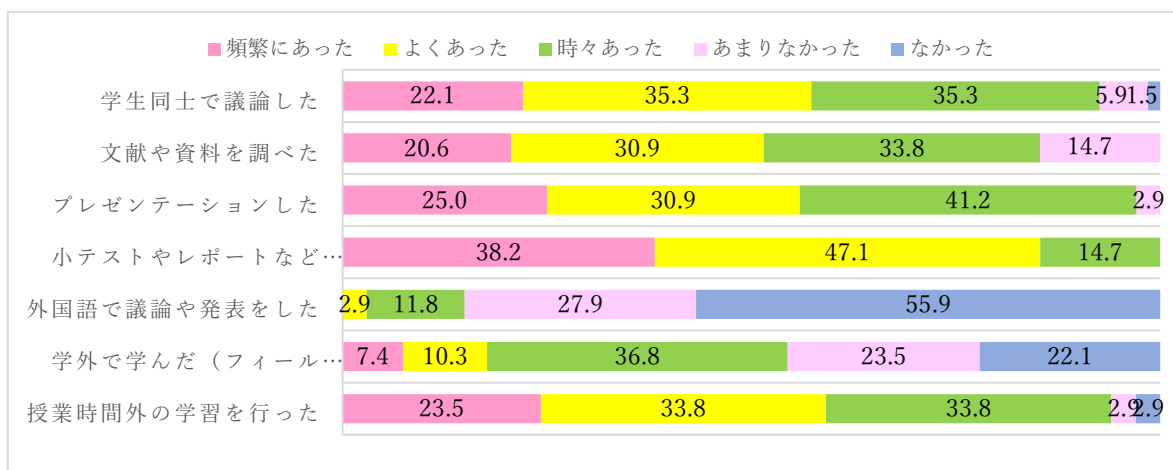


図 6. 在学中の講義機会について

6. 身についた力

本学では、学位授与方針(ディプロマポリシー)として、「専門分野の知識の習得」、「問題解決能力および情報収集・活用力」、「幅広い教養からくる心の豊かさ」などを身に着けた人材を地域社会に送り出すことを挙げている。卒業時に身についた力について 13 項目で回答してもらった。集計結果をみると、特に「専門分野の知識の習得」が顕著であり、「他者とのコミュニケーション



力」、「課題解決力」「情報収集・活用力」、「幅広い教養」が身についたと感じていることがわかる。卒業した学生は総じて、本学が教育課程において養成しようとする力を一定程度身につけることができた、と感じているようである。一方で、「外国語の運用能力」は低い状態であり、グローバル化した現代において対応していく必要がある内容となった。「専門分野の知識の習得」や「他者とのコミュニケーション力」において、身についたと回答する学生が多く、本学の教育課程を通して養成される力の特徴の一端が伺える。

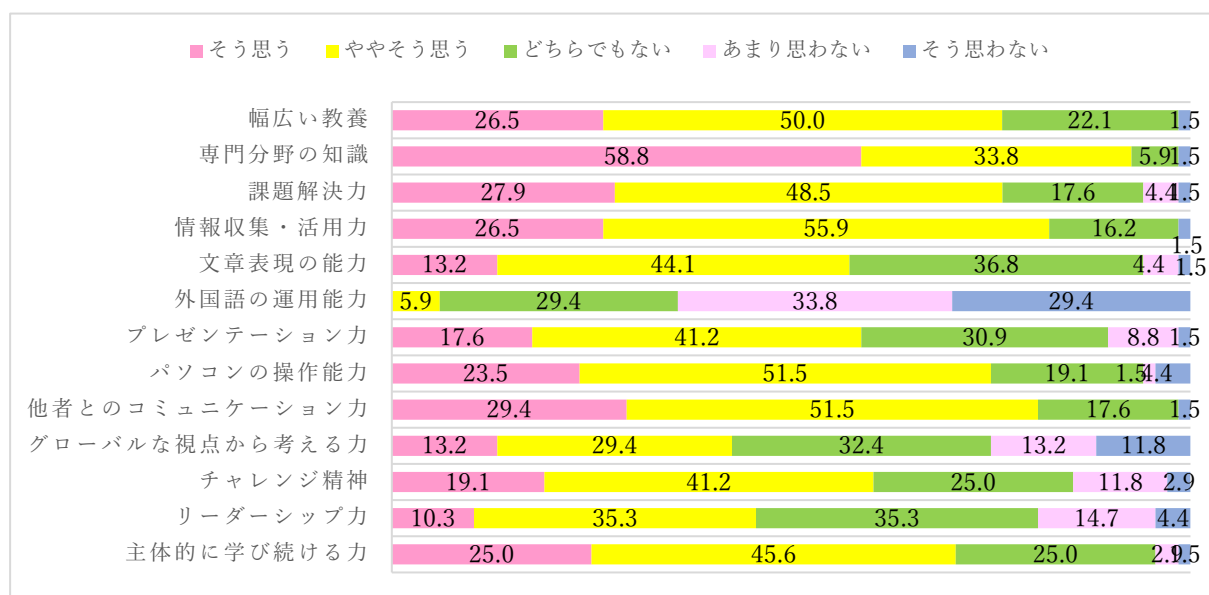


図 7. 身についた力

7. 進路決定に役立ったもの

卒業後の進路決定について、役立ったものをたずねた。就職等を念頭に置き入学する学校選びをしているため、「学修した内容」、「学修した分野」について役立ったと回答する学生が多かった。アドバイザーによる支援も学修した内容・分野に次いで多かった。アドバイザーは、今までのサポート経験も豊富なため、進路に迷った際に気軽に相談できることが要因と思われる。キャリアガイダンス等も約4割強の学生が役立ったと回答している。希望すれば大学1年時より受講可能で、大学3年時からは集中的に行われており、就職ガイダンス、マナー講座、社会人入門講座、キャリアアップセミナー、公務員試験等対策講座と種類も豊富に取り揃えて実施している。

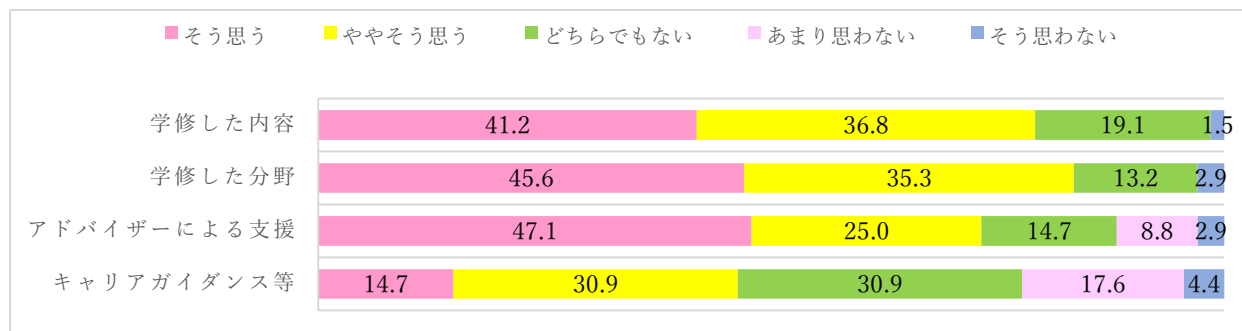


図 8. 進路決定時に役立ったもの



8. 進路満足度

卒業後の進路について、希望に沿ったものであるかをたずねた。大半の学生が「そう思う」、「ややそう思う」と回答しており、概ね希望に沿った進路に進むことができているようである。一方で、卒業後の進路が希望に沿わない学生も一定数は存在している点には注意する必要がある。

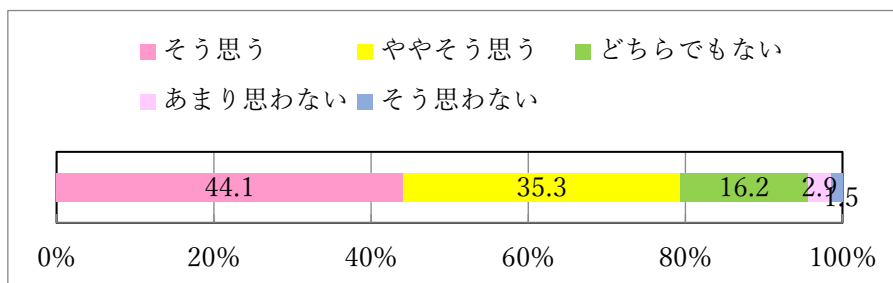


図9. 希望通りの進路が実現できたか

9. 本学は、第一希望だったか

調査では、6割強の学生が第一希望であり、他方ではそうでなかったと回答が得られた。最終的な卒業後の進路選択（前設問の希望通りの進路が実現できたか）の結果を考慮すると、第一希望でなくとも希望の進路を実現している学生が一定割合いることがわかる。第一希望の学生教育も重要な目的となるが、地方大学の使命として地域に資する学生教育こそが地域貢献ともなりえるため、希望者が希望通りの未来を描けるよう教育機関としての機能向上を成し遂げていく必要がある。

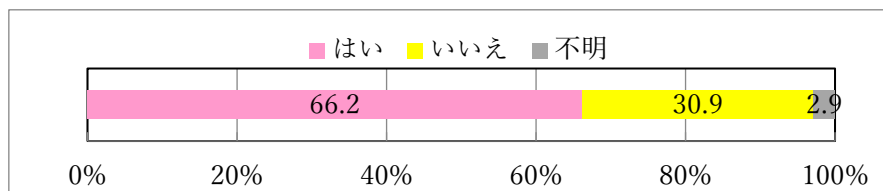


図10. 本学が第一希望かどうか

* 「不明」は、指定された箇所に回答しなかったことに因る

10. まとめ

本調査の結果から、卒業生は学修の成果として、教育課程において養成されるべき力が身についたという手応えを、ある程度は得ていることがうかがえる。また、進路についても概ね希望に沿ったものとなっているようである。大学での学修満足度も概ね良好であり、希望通りの進路選択もできているとわかった。本学の教育内容は、一定数の卒業生を満足させることができているといえるだろう。ただし、この調査は卒業が確定した段階で実施したものであるため、回答分布が全体としてポジティブな方向にシフトしている可能性がある。他のアンケート調査やエンローメント・マネジメントの方法についても検討が必要だろう。

【注記】

調査で「不明」と回答されたものは、理由を付記したもの以外は、重複回答や未回答に因るのデータ選択から外した。